

白神通信

藤里森林生態系
保全センター
令和元年5月22日
No.88

藤里森林生態系保全センター

4月1日より新体制スタート、
よろしくお願ひします！

山内

有本

谷藤

小林

齊藤

所長 谷藤 忠志（東北森林管理局 総務企画部 専門官より転入）

“久方ぶりの白神山地”

今から10年ほど前、秋田県内の白神山地を管理している米代西部森林管理署に勤務した時が、白神山地世界自然遺産を知るきっかけでした。その当時は世界遺産に登録された後の観光地としての一大ブームが去り、白神山地を訪れる人は自然環境や森林の生態系等に興味がある方々が主体となっていました。

その中でも、岳岱自然観察教育林やニツ森といった、比較的車からのアクセスがよい世界遺産の周辺地域に来られる方がほとんどでしたが、中には入り込みが認められていない粕毛川源流部へ魚釣りに来て宿泊したりゴミを置いたまま帰るなど心ない方もおり、当時から生態系保護のためパトロールが行われていました。

ところが白神山地を取り巻く状況は変わりつつあり、着任前から薄々「ニホンジカやイノシシといった、今まで生息していなかった動物が増えている」ということは報道で知っていたものの、「最近では生態系保全のためにパトロールの対象が“人”から“ニホンジカ”へ変わってきている」ということを思い知らされるようなデータを目の当たりにし、なるべく多く山へ行き

パトロールをしなければと思わされました。

昨年は白神山地が世界自然遺産に登録されて25周年ということで、東北森林管理局をはじめ様々なイベントが企画、開催され、たくさんの方々が白神に来られて久しぶりにマスコミを賑わせた年となりました。これからも生態系保護のための業務と白神山地のPRを継続し、次の節目の年に行われるであろうイベントの時も、今までと変わらない白神山地を見ていただけるようにしていかなければいけません。

生態系管理指導官 山内 武文（三八上北森林管理署 首席森林官より転入）

4月1日付けで三八上北森林管理署から異動となりました山内です。職場の方々の力を借りながら頑張りたいと思います。

また、豊かな自然に訪れる春夏秋冬、季節ごとに異なる表情を見せてくれる「白神」を楽しめるようになりたいと思うので、よろしくお願いします。

専門官 小林 あずみ（三陸北部森林管理署久慈支署 森林官より転入）

4月から、藤里センターでお世話になります小林といいます。実は藤里は、東北で働き始めた初赴任の地。ちょうど10年目の帰還となりました。その間、山遊びを覚え、狩猟免許を取り、ずいぶんと逞しくなったと思います。この白神山地のふもとで、皆様の力を借りながら、明るく楽しく仕事をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



専門官 有本 実

当センター勤務2年目、今年度も引き続き中・大型哺乳類調査やニホンジカ対策等を担当するほか、令和元年度『白神通信』の編集作業も受け持つことになりました。見やすく分りやすい紙面作りを楽しみたいと思います。休日は白神周辺で登山や釣りやキノコ採りや写真撮影や何やかや・・・していることが多いので、見かけましたらお声掛け下さい。

一般職員 齊藤 俊介

新規採用で当センターに着任して早1年が経ちました。さすがにもう仕事には慣れました！と、言いたいところですが、まだまだ分からない事ばかりで毎日が勉強です。

今年度の主な業務は事務ですが、積極的に現場に出てセンター職員としての知識を増やしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。



《 お世話になりました 》

宮城北部森林管理署 次長 泉 光博（所長より転出）

4月1日付けで宮城北部森林管理署へ異動することになりました。毎日、藤里駒ヶ岳を眺めながら通勤した3年間は、白神山地世界遺産の保全等に関するなど、大変貴重な経験となりました。白神山地は新たな発見や感動が沢山詰まっています。それを教えてくれた白神山地に関する方々に感謝し、転勤の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

森林技術総合研修所 研修企画官 舘野 剛（生態系管理指導官より転出）

4月1日付けで森林技術総合研修所へ異動することになりました。3年10ヶ月の間お世話になりました。世界自然遺産である白神山地に関する仕事ができること、大変貴重な経験であったと感じております。原生的なブナ林が良好な状態のまま将来に引き継がれていくことを祈念しまして、離任の挨拶に代えさせていただきます。重ねまして大変お世話になりました。

米代西部森林管理署 森林整備官 畠山 修（専門官より転出）

4月1日付けで米代西部森林管理署へ異動になりました。藤里森林生態系保全センターには3年間お世話になりました。在職中は、田苗代湿原で十数年ぶりといわれるニッコウキスゲの満開を見ることができた事や、白神山地世界遺産登録25周年の記念事業に携わる事ができたのはとても良い思い出になりました。3年間大変お世話になりました。

濱田 眞智子（平成31年3月31日付 退職）

3月31日付けで当センターを任期満了により退職することになりました。長きにわたり、岳岱自然観察教育林、田苗代湿原、藤里駒ヶ岳、小岳、二ツ森、釣瓶落峠、太良峡等々、たくさんの自然とふれあうことが出来ました。これからの人生もまた、楽しく過ごせたらと思っています。白神山地周辺に出没していたら声をかけて下さい。大変お世話になりました。

中・大型哺乳類調査＋ニホンジカ対策開始

突然ですが、『白神山地世界遺産地域モニタリング計画』ってご存じですか？ 白神山地のブナ林生態系を後世に引き継ぐためには長期に渡る科学的なデータの蓄積が重要で、2012年に策定・2017年に改訂されたものです。本計画に基づき環境省や林野庁、青森・秋田県、弘前大学や岩崎中学校、ブナ林モニタリング調査会など多くの機関が連携して、白神山地の気象や水質・植生・動植物・菌類・人の利用状況等々多岐にわたる項目について、毎年モニタリング調査が継続されています。調査結果の概要については世界遺産センター西目屋館のHPに掲載されていますので、興味のある方は『白神山地世界遺産地域モニタリング計画』で検索してみてください。



センサーカメラ設置作業



シカ捕獲用の小型囲いわな

前置きが長くなってしまいましたが・・・当センターではこの計画に沿って、センサーカメラによる中・大型哺乳類調査を平成26年度から毎年実施しています。昨年度の調査結果は当センターHPに掲載していますので、詳細についてはそちらからご覧ください。

今年度は4月12日（金）、海に近く雪解けの早い八峰町小入川地区から、カメラの設置とデータ回収作業をスタートさせました。もうデータ回収？と思われるかもしれませんが、実はこの地区では毎年秋にニホンジカ（以下、シカ）の撮影回数が増える傾向があるため、シカ捕獲用の小型囲いわなを設置している他、“シカ監視用”として計3台のセンサーカメラを試しに冬期間ずっと稼働させていたのです。右の表が、これら3台の撮影データ（昨年11月26日～今年3月31日）を集計したものです。カメラ稼働期間中、キツネやカモシカ等が写り込んでいましたが、シカは一度も撮影されませんでした。秋口に撮影されていたシカ達は、越冬場所を求めてさらに低標高で雪の少ない場所へ移動する途中だったのかもしれません。

種名	合計
キツネ	25
カモシカ	16
ニホンザル	16
テン	11
タヌキ	9
ハクビシン	7
ニホンノウサギ	7
不明ネズミ類	6
イエネコ	3
ニホンリス	1
不明哺乳類	1
ヤマドリ	1
キジ	1
個体数合計	104
種数合計	11



キツネ



カモシカ



ニホンザル

【冬期間に小入川地区で撮影された上位優占3種】

これから世界遺産地域周辺に計30台のカメラを設置し、毎月1回程のペースでデータ回収を行います。併せて、5月末までは小入川地区の囲いわなを稼働させ、シカの捕獲を試みます。シカが撮影・捕獲されましたら本誌面上でお知らせしますが、白神山地周辺でシカを目撃された方は、ぜひ当センターまで情報をお寄せください。（有本）



（発行） 林野庁 東北森林管理局 藤里森林生態系保全センター

〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添 24-3

TEL:0185-79-1003 FAX:0185-79-1005

